

杉並区ケアプランデータ連携システム活用促進支援事業

杉並区では、「令和7年度杉並区ケアプランデータ連携システム活用促進事業」を開始しました。本事業では、介護事業所における業務の効率化とサービスの質の向上を支援するためケアプランデータ連携システムの導入から操作方法、データの入出力まで、専門スタッフが丁寧にサポートします。

安心してシステムをご活用いただけるよう、万全のサポート体制で環境づくりをお手伝いします。

ケアプランデータ連携システムのフリーパスキャンペーン！

現在、厚生労働省では「フリーパスキャンペーン」を実施中。申込は令和8年5月31日まで。通常、年額21,000円（月額1,750円）かかるライセンス料が、申請日から1年間無料でご利用いただけます。「導入コストが気になる」「周りの事業所を誘いたいけど、きっかけがない」そのようなお声にお応えし、業務改善の第一歩をライセンス料のご負担なく始められるキャンペーンです。



地域導入率20%が突破口になる！

杉並区では令和7年度中に、導入率20%を目指します。地域で導入率が20%を超えると、便利さが一気に拡がり、システムの普及が加速します。支援の輪が広がることで、地域ケアは確実に変わります。最初の一歩は不安かもしれません、サポートがあれば前に進めます。地域の仲間と共に、一歩を踏み出し「連携先の事業所が増えないと意味がない」を過去の話にましょう。



安心の遠隔サポートサービス！

オンライン・オフラインのハイブリット支援を活用し、伴走支援メンバーが、ケアプランデータ連携システムの導入から操作方法、データの入出力まで一連の流れを丁寧にサポートいたします。目の前のパソコン画面と一緒に見ながら操作を進められるので、「やり方がわからない」「触るのが不安」といった悩みも即座に解決。不安を安心に変える支援体制で、地域でのシステム普及を後押しします。まずはお気軽にご相談ください。



令和7年度限定、導入したら月々の介護ソフト費を最大10万円まで区が補助！

令和8年3月31日までにケアプランデータ連携システムを導入すると1事業所あたり最大10万円までの介護ソフトの実費を区が補助します。補助を受けるためには条件があります。区ホームページ（ページID:1946）「杉並区ケアプランデータ連携システム導入経費補助金」で詳細をご確認の上、申請して下さい。



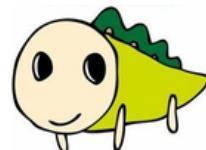
お問い合わせ先

サポートダイヤル
株式会社アズパートナーズ

📞 03-5577-6167

受付時間 09:00 - 16:00
(土日・祝と12/27~1/4を除く)

【ポータルサイト】
伴走支援のお申込み
はこちら→
12月18日9:00より
受付開始



委託元：杉並区介護保険課事業者係

ケアプランデータ連携システムの導入までの流れ

1

パソコンの確認

2

介護ソフト
の確認

3

電子請求用ID
の確認

4

製品の
ダウンロード

5

電子証明書の
インストール

6

利用申請

Windows10以上
上でインターネットに接続でき
る端末をご用意
ください。



ご利用中のソフ
トが「ケアプラ
ン標準仕様」に
対応しているか
を確認してく
ださい。

「KJ」で始ま
る14桁のIDと有
効なパスワード
をご確認くだ
さい（電子請求に
使用するもので
す）。

専用サイトから
「製品ダウンロ
ード申し込み」
を行い、端末に
インストールし
ます。

電子証明書が
必要です。種類
を確認し、未所
持の場合は発行
申請のうえ端末
にインストール
します。

利用状況WEBサ
イトにアクセス
し、ID・パスワ
ードを入力して
利用申請を行っ
てください。

「かんたん・あんしん・さくげん」で、介護現場の業務を効率化！

- かんたん**：計画書（第1表・第2表・第3表）や提供票（第6表・第7表）などのCSVファイルをドラッグ＆ドロップするだけで連携完了。郵送やFAXの手間を省き、業務をスマートに。
- あんしん**：記載ミスや書類不備が減少し、手戻りが大幅に軽減。介護報酬請求と同様の高いセキュリティ方式を採用しており、安全性も確保。導入から運用まで、安心のサポート体制が整っています。
- さくげん**：やりとりにかかる時間を約3分の1に削減できる調査結果も。月額1,750円のご負担で、年間約80万円の業務コスト削減が見込まれます。費用対効果のシミュレーションも公開中。

伴走支援を受けた自治体様やサービス事業所様の声



「点ではなく“面”で広げる必要性を実感。今だからこそ導入」

法人内の複数事業所で連携して導入できたのは、支援体制と行政の皆様の後押しがあつたからこそ。情報連携の真の価値を実感しています。（法人事務局／地域統括責任者）



「“うちには難しい”と思っていたけれど…」

伴走支援のスタッフが来てくれて、一緒に操作して確認してくれたおかげで導入できました。“できた”という自信にもつながりました。（デイサービス 管理責任者）



「説明だけでは動かない。“寄り添い型支援”が鍵でした」

データ連携の重要性は伝えてきましたが、実際に導入が進んだのは、サポーターさんの伴走支援があったからこそ。個別訪問や説明会開催が地域の空気を変えました。（自治体担当係長）